

■羽田盃（Jpn I）アラカルト（過去全 69 回の分析）

※第 1 回（昭和 31 年）から第 8 回（昭和 38 年）までは「大井杯競走」の名称で実施
※第 1 回（昭和 31 年）から第 11 回（昭和 41 年）までは 1,800m で実施
※第 12 回（昭和 42 年）から第 40 回（平成 7 年）までは 2,000m で実施
※第 41 回（平成 8 年）から第 43 回（平成 10 年）までは 1,800m で実施
※第 44 回（平成 11 年）から第 46 回（平成 13 年）までは 1,600m で実施
※第 47 回（平成 14 年）から第 48 回（平成 15 年）までは 1,790m で実施
※第 19 回（昭和 49 年）、第 57 回（平成 24 年）は 2 頭が 3 着同着
※第 52 回（平成 19 年）から第 68 回（令和 5 年）までは S I として実施
※記録は令和 7 年 4 月 15 日時点

■2 番人気以内の馬は堅実

単勝 1 番人気馬は 31 勝、2 着 9 回、3 着 7 回で、3 着内率が 68.1%、単勝 2 番人気馬は 24 勝、2 着 18 回、3 着 8 回で、3 着内率が 72.5%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 14 回、3 着 16 回で、3 着内率が 47.8%となっている。上位人気に推された馬、特に単勝 1～2 番人気馬の活躍が目立つレースだ。

■半数近くの回で 3 番人気以内の 2 頭がワンツー

過去 69 回のうち 58 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 33 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 15 回ある。

■“無敗”で優勝を果たした馬は 7 頭

2 着以下に敗れた経験がない馬の優勝例は、第 27 回（昭和 57 年）のホスピタリテイ（7 戦 7 勝）、第 32 回（昭和 62 年）のシナノデービス（4 戦 4 勝）、第 38 回（平成 5 年）のブルーファミリー（6 戦 6 勝）、第 42 回（平成 9 年）のキャニオンロマン（4 戦 4 勝）、第 45 回（平成 12 年）のイエローパワー（3 戦 3 勝）、第 46 回（平成 13 年）のトーシンブリザード（4 戦 4 勝）、第 68 回（令和 5 年）のミックファイア（3 戦 3 勝）と、これまでに 7 回ある。

■牝馬は5勝、外国産馬は1勝

牝馬の優勝例は、第4回（昭和34年）のハルセキト、第26回（昭和56年）のコーナールビー、第34回（平成元年）のロジータ、第37回（平成4年）のカシワズプリンセス、第56回（平成23年）のクラーベセクレタと、これまでに5回ある。なお、外国産馬の優勝例は、第50回（平成17年）のシーチャリオットのみだ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「7」

騎手別の勝利数を見ると、7勝の赤間清松騎手が単独トップ。的場文男騎手が6勝で単独2位、石崎隆之騎手が4勝で単独3位となっている。

■調教師別の歴代最多勝記録も「7」

調教師別の勝利数を見ると、出川己代造調教師が7勝で単独トップ、川島正行調教師が4勝で単独2位、竹内美喜男調教師、矢野義幸調教師が3勝で3位タイとなっている。

■3枠ほか中心寄りの枠番が優勢

枠番別勝利数を見ると、3枠（17勝）が単独トップ。5枠（11勝）が単独2位、4枠と6枠（各10勝）が3位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、3番（10勝）が単独トップ。4番（8勝）が単独2位、7番、9番、10番（各6勝）が3位タイだ。なお、未勝利の馬番はないが、2番、13番、14番、16番はそれぞれ1勝ずつにとどまっている。

<伊吹雅也>